

日本物理学会領域 2 役員会議 議事録案

日時: 2021 年 3 月 12 日(金) 18:00-20:10

Zoom オンライン開催

司会: 領域 2 代表 金子、稲垣、千徳、佐々木、高橋、小林、佐野、沼田、本島、相羽、  
福田、書記: 山田

事前配布資料: 210312-領域 2 役員会-オンライン-ver3.pptx

報告・議論事項

- 1) 2021 年 4 月からの役員体制・役割分担
- 2) 新役員の推薦と領域代表、領域副代表の候補について
- 3) 2020 年秋季大会学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 若手奨励賞 (第 15 回 (2021 年)) に関する報告
- 5) 米沢富美子記念賞の募集と審査について
- 6) 2021 年秋季大会シンポジウム・招待講演等の提案
- 7) 企画セッションの提案
- 8) 講演件数の推移
- 9) 領域委員会報告と意見交換
- 10) 学生優秀発表賞の規定変更の件
- 11) その他 (懇親会)

報告・議事内容

- 1) 2021 年 4 月からの役員体制・役割分担

下記体制を承認した。

領域代表 稲垣 滋 (九州大学)

領域副代表 千徳 靖彦 (大阪大学)

領域前代表 金子 俊郎 (東北大学)

運営委員 (小林、佐野、沼田、本島、相羽、福田)、役員 (佐々木、高橋、山田)  
運営会議等の連絡は小林・沼田、物理学会からの連絡責任者は佐野。

- 2) 新役員の推薦と領域代表、領域副代表の候補について

2021 年 10 月からの新領域役員として以下 3 名の推薦を提案。

次期領域役員 藪内 俊毅 (高輝度光科学) 佐々木 後任

次期領域役員 四竈 泰一 (核融合研) 高橋 後任

次期領域役員 斎藤 晴彦 (東京大学) 山田 後任

2022年4月からの役員体制を提案。

領域代表候補 千徳 靖彦（大阪大学）

領域副代表候補 未定

3) 2020年秋季大会学生優秀発表賞に関する報告

44名の応募者から、以下6名を選出。

- Adulsiriswad Panith (Grad. Sch. of Energy Sci., Kyoto Univ.)  
「Numerical Investigation of the Energetic Particle Redistribution and Interaction with Alfvén Eigenmode in Heliotron J」
- 浅井 孝文（神戸大院海事）  
「原子核乾板スタック内での多重クーロン散乱過程を利用したサブ GeV 級レーザー加速陽子線評価手法の開発」
- 東 直樹（阪大院理）  
「10ピコ秒スケール高強度レーザープラズマ相互作用における相対論的電子ビームの生成」
- 的池 遼太（京大エネ科）  
「Heliotron Jにおける三次元磁場構造を背景とした周辺プラズマ輸送特性」
- 森 隆人（阪大レーザー研）  
「レーザー駆動中性子源の宇宙核物理学への応用 –低エネルギー中性子数の評価–」
- 横山 達也（東大新領域）  
「LHDにおける放射崩壊の予知と物理背景のデータ駆動型研究」

4) 若手奨励賞（第15回（2021年））に関する報告

- 佐藤 直木（東大新領域）

研究題目：トポロジー束縛を持つ統計力学:位相空間の葉層化と自己組織化現象の解明

- 西村 征也（法政大学）

研究題目：磁気流体不安定性に対する運動論的効果に関する理論的研究

講演資料を前回分も含めて領域2ウェブページにアップロードする（本島）。

寄せられた意見をもとに今後の審査に関して意見交換をした。

- ・ 審査委員名は審査後に公表しても差し支えない。
- ・ 学生や指導教員によって熱量が違う、一度落ちると諦めてしまう、組織内で暗に調整してしまう、などの理由により応募が減っているため、今後働きかけをしていく。
- ・ 論文3本の応募条件は減らすべきという意見と現状維持という意見があった。

- 5) 米沢富美子記念賞の募集と審査について  
領域 2 から、2 名を上限として授賞候補者を推薦することができる。  
領域 2 の推薦締め切り：2021 年 10 月中旬  
提出先：(次期) 領域代表 稲垣  
積極的に候補者にお声がけし、立候補を促していく。  
2020 年度は領域 2 から 1 名応募があり落選。詳細は不明。
- 6) 2021 年秋季大会シンポジウム・招待講演等の提案  
企画講演 (0 件提案)
- 招待講演 (1 件提案)  
富田健太郎 (北大) (提案者：藤岡慎介) 運営会議で説明 (佐野)
- シンポジウム (1 件提案)  
「原子・分子過程で繋ぐマルチスケールプラズマの科学」(提案者：藤岡慎介)  
運営会議で説明 (佐野)  
コロナの状況に関わらず、アメリカからのリモート講演がある。おそらく問題無い。  
  
運営会議以降も新規提案を 5 月まで募集し、ML で審議する。
- 7) 企画セッションの提案  
「トリガーを捉えるメタステート科学」(提案者：千徳靖彦、稲垣滋、比村治彦)  
期間：2021 年秋季大会より 4 回 (申請によりさらに 4 回の延長が可能)
- 企画セッションは他領域との合同も可能である。
- 8) 講演件数の推移  
一般講演 98 件。  
年次大会として 2000 年以降では初めて 100 件以下になってしまった。  
引き続き、講演者数増加の対応策を検討していく。
- 9) 領域委員会報告と意見交換  
資料 20 ページをもとに報告。  
シンポジウムの時間は原則 3.5 時間以内とすることが確認された。  
招待講演候補者の共著者は提案者になれない。○○Group や○○Teams に注意。

講演の英語対応について、以下の 2 点を運営会議で提案する。

- ・講演は日本語で構わないが、スライドの英語化を推奨する。
- ・将来的には概要集を英語で書くことも推奨する。

理事会から、コロナ収束後も年次大会と秋季大会のどちらかをオンラインにするという提案。その場合、領域 2 としては学会が集中する秋季大会を希望する。

10) 学生優秀発表賞の規定変更の件

以下の 2 点の変更を再度運営会議で提案。

- ・一次審査の審査委員の人数を「3 名」から「3 名以上」とする。  
(今後オンライン開催の場合に 4 名で実行する。3/15 追記)
- ・受賞回数を 2 回に制限する。

11) その他（懇親会）

- ・懇親会：3 月 13 日(土) 19:00–21:00（運営会議終了後 Zoom で開催）  
飲食は各自準備。
- ・運営会議・懇親会参加の周知：明日の各セッション担当運営委員が案内する。
- ・学生優秀発表賞審査会：3 月 15 日(月) 18:30–

以上